



## JUNBA 理事会(第 183 回)議事要旨

日時: 令和 6 年 3 月 21 日(木)16:00~17:00

場所: 日本学術振興会サンフランシスコ研究連絡センター(オンライン)

出席者: 11 名

【理事】 桜美林大学(丸山会長)、大阪大学(North 副会長)、名古屋大学(神山理事)

【事務局】日本学術振興会(中別府事務局長(兼常務理事)、池田副センター長、田邊、Hughes)

【会員/オブザーバー】神戸大学(石井、橋本)、名古屋大学(岡田)、三宅(立命館大学)

### 1. 会長挨拶(丸山マリ会長)

### 2. 活動報告:

大阪大学 北米拠点 スコット・ノース氏

大阪大学の海外拠点(4拠点)の設置状況について、まず説明があり、その後北米拠点についての詳細の説明があった。具体的には下記のとおりである。

- ・Berkeley にある北米拠点には、現地職員がおり、センター長は出張ベースで運営に携わっている。
- ・Bay Area における最先端のアントレプレナーシップ教育やイノベーション人材育成に寄与する高度人材教育の推進、Global Knowledge Partnership (GKP: 戦略的パートナーシップ)事業のフォローアップをすると同時に会外大学の事例を調査し、全額に報告することが二大ミッションとなっている。
- ・目標としては留学生数(Pie)を増やすこと、多様性を拡張することが設定されている。

#### ①アウトバウンドの留学生数(Pie)増加

-北米拠点から主として遠隔授業で「世界は今」という授業(日本語)を基盤教養教育科目として学部 1 年生を対象に提供し、海外の大学のレクチャースタイル、社会状況、歴史、そしてアメリカのビジネスなどを学んでもらい、文化、考え方等様々なことを考えてもらい、その後3年次の海外留学に繋げてもらうことを目指している

-新しいパートナーシップを開拓し、留学の需要に合わせていきたい(語学要件が優しい大学との協定も検討中)

-個人的な人間関係を築くためには現地に出向くことが大事

-奨学金獲得

#### ②インバウンド(多様性拡張のために)

-アウトバウンドの留学生の増加のためにも重要視している

-留学フェアへの参加、NAFSA への出席、キャンパス訪問などを実施

-新しい奨学金を提供

-海外パートナーのニーズに合わせていくことが必要と考えている(サマープログラムの提供など)

・現在、大阪大学への北南米からの留学生は4%未満であるが、大阪大学の学生の留学希望先は欧米となっており、そのアンバランスの是正が課題となっている。

報告の後、質疑応答で下記のとおり意見のやり取りがされた。やりとりについて一部抜粋する。

・丸山会長：オンラインの授業提供は必修か？

→必修ではないものの多くの学生が履修している。また、4つの海外拠点の中で北米拠点のみが、授業を提供している。労力面で、授業の運営に苦労している。

・神山理事：留学については、study abroad プログラム(受け入れの方)を受け入れる体制を整えることが最初だと考えている。カレンダーが合わないにしても、エクステンション等を使って、5月ごろに12単位取得可能な数週間の夏のプログラムを提供し、留学生を受け入れることを考えている。米国内の大学のプログラムを自大学で受け入れ、授業自体は米国の教員が実施する形での留学というのを検討したい。

・丸山会長：日本人の学生を送り出すことは経済的に難しいが、米国の学生を日本に受け入れ、交流させた成功例がある。

・石井氏(神戸大)：TOEFLの必要要件が低い大学との協定を探しているところのことだったが、米国内でのそれに対する需要はどうか。また、競合する他大学はどのようなところなのか。  
→サンフランシスコ州立大学をはじめとする州立大学らは日本への留学費用の安さや、文化面、治安のよさから、日本、特に阪大や神戸大のような大学への留学についての需要が高いと考えている。州立大学等は関西の大学との交流がない場合が多いため、そこを押し進めている。

### 3. 理事会 議題・報告

JUNBA 事務局からのお知らせ

(1) 前回理事会の議事要旨について

事務局から、事前に共有された資料について追加・修正等の意見がなかったことが報告され、原案どおり承認した。

(2) エグゼクティブアドバイザーの就任について

エグゼクティブアドバイザーについて、在サンフランシスコ日本国総領事館黒川領事が文部科学省へ帰任となり、新たにその後任である近江領事にエグゼクティブアドバイザーを依頼する旨確認された。

(3) 各拠点の令和5年度の活動計画について

(4) 各拠点の令和6年度の活動計画について

令和5年に引き続き、令和6年度においても活動計画の共有をしてもらいたい旨、事務局から説明があった。

### 4. 月例会 - (丸山マリ会長)

丸山会長から、Google Form を利用して実施したアンケートの結果について共有がされ、今後の活動における方向性の可能性が示された。また、アンケートの結果について共有が必要な場合は、丸山会長に問い合わせをすることと確認された。

(令和 6 年度以降の予定)

2024 年 4 月 25 日(木)

2024 年 5 月 23 日(木)